

第52卷・第6号 平成16年11月1日発行

牧草と園藝

11月号
2004



種子センターの紹介

千葉種子センターは、平成4年12月、東京本部ビルがある千葉市美浜区新港から千葉研究農場の敷地内に移転し業務を開始しました。

目の前で取扱い商品である種子の育種開発を行っており実際の作物を圃場で観察、確認出来ること、千葉北ICが近く物流面で便利であること、敷地に余裕があり将来的に倉庫が拡張可能であること、また事務所内には種苗品質管理課を併設し室外試験を含め農場研究スタッフとの連携で検査体制が一層強化されました。近年は仕入部署も加わり種子センターから出入りする商品を直に見て触れて確かめる種苗メーカー本来の原点に立ち返り安全で良質な商品提供に努めております。

千葉種子センターの設備は、敷地約2,000坪に2階建倉庫延床面積920坪があり、牧草種子用1棟、芝生種子用1棟、野菜種子用2棟の恒温恒湿倉庫を設備しています。また、各種自動包装機、缶詰用包装機、精選機、乾燥設備があり、野菜商品は入荷種子の保管、包装作業、製品在庫管理を全て定温湿庫で行い品質維持向上に努めております。当種子センターは、関東近県を中心に長野、中京、北陸のお客様への商品発送を行うとともに、東北への倉移供給など府県の基幹種子センターとしての役割を背負っております。

次に九州、沖縄方面のお客様への商品をお届けする熊本種子センターをご紹介します。

取扱い物量の増加と老朽化から平成9年10月にアクセスの良好な現在の菊池郡菊陽町に移転致しました。

ここは熊本県のシンボル阿蘇外輪山が遠望でき、近くに県内有数の酪農畜産地帯があり、空港や運送会社にも近く流通面でも一段と便利になって、お客様にも喜んで頂いております。

新種子センターの建設にあたり暖地での拠点として敷地約4,200坪に天井と内壁に断熱材を使った平屋倉庫1,120坪と中にワンフロア220坪の広い定温定湿保管倉庫を持っております。また、原料倉庫、製品倉庫、包装作業場、雨天でも大型トレーラー2台が並列して荷役できる150坪の上屋集荷場を区画保有し商品管理と搬出入の流れが効率的に設計されております。商品の保管は、プラパレット積み商品がスライドする移動ラックと重ね積み用ネスラックを組み合わせ、荷痛みのない空間を利用した機能的な商品管理を実現し整理整頓に心掛けております。種子の包装に関しても取扱い物量の多さからSUS製の原料ビン自動倉庫によるコンピューター制御の自動包装システムを採用し製造出荷の短縮を図りました。最盛期は、風雨に関係なく毎日、港の保税倉庫から仕入種子を引取り、事務所内の種子検査室で厳しく品質確認を行い、良質な種子だけを商品化し安全に保管して、お客様にお届けしております。熊本種子センターは、地域性を活かし九州のへそ熊本に物流の大量移動とスピード力を発揮しております。

千葉種子センターと熊本種子センターは、お互いに連携を図りながら、今日もお客様から喜ばれる品質管理された商品の発送に努めております。



自動包装機



自動ラック